

高木復興大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録

(平成27年12月17日(木) 15:30～15:39 於) 宮城県多賀城市)

1. 発言要旨

本日は塩釜市、松島町、七ヶ浜町、多賀城市を訪問いたしまして、魚市場や産業・観光の復興状況等を確認させていただきました。改めて産業、生業等に関する新たな課題への対応や東北における観光の活性化が重要であるということを確認させていただきました。

市長、町長さんともお会いをいたしまして、塩釜市におきましては、完成した災害公営住宅を視察し、既存の自治会と交流し、地域コミュニティ活動に取り組む話を自治会長の方からお伺いいたしました。住まいだけではなく、地元の方と一緒に絆を深めるスタイルというのは、今後の復興のモデルとなるのではないかとというようなことも感じました。

また、建設中の津波避難デッキの整備や魚市場の整備を視察させていただきました。生き生きと復興している様子を実感いたしました。魚市場は観光の呼び水にもしたいということでもございました。

松島町におきましては、観光客は震災前のまだ8割にとどまっている。特に台湾、中国などからのインバウンドは半分程度だ。日帰りの客も多い。観光復興の課題は多いというふうに感じました。

瑞巖寺は、津波の潮をかぶったため参道の杉が枯れた。松島の松くい虫の被害も大きく、対策を強めたいと思います。

七ヶ浜町におきましては、七つの浜ごとに高台に移転をし、まちづくり協議会を設け、まちづくりや家並みのワークショップを開いて合意形成に努めたということで、迅速に進展したということをお聞きしました。被災したノリの生産は復旧・再開しており、これは食もさせていただきました。大変おいしくいただきました。

また、多賀城市では防災・減災推進と製造業の復興の拠点として、さんみらい多賀城・復興団地を整備したということでもございました。立地のよさ、県や市のインセンティブも活用し、類を見ない早さで企業立地が進んでいるというふうに感じました。

私からは、特に今日は観光についても見たわけでありませうけれども、復興庁としてもまた新たな取組を打ち出し、まさに来年は東北観光復興元年にしたいというふうに考えております。近々会議体を立ち上げるとともに、補正予算や当初予算にも盛り込みたいと考えております。

多賀城市では、企業立地の成功事例を見させていただきました。新素材など製造業も、水産加工業も攻めの輸出に取り組んでおられるということを感じさせていただきました。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今、大臣もおっしゃってございましたけれども、かねてから大臣、東北の

観光ですとか、あと水産加工業ですとかに振興に力を入れたいというお話をされていましたが、今日実際に松島を見られて、また多賀城市でも、加工から立地する企業が、生産加工業の企業が幾つも入っていると思いますけれども、こういったところに具体的にどういった支援が必要だと考えていらっしゃるでしょうか。

(答) 復興、まず住まいということで、まさに今年あるいは来年にかけてピークを迎えます。いよいよその次は産業だとか生業だとか、そういう段階に入りますけれども、私、観光というものも、あるいはもちろん東北というのは水産業は非常に大事な産業でございますので、それを復活させないと東北の復興はないというふうに感じています。そこで、先ほども申し上げましたけれども、この補正においても観光あるいはまた水産業の振興、そういったところに予算をつけさせていただき予定でございますし、また、本予算においても、先ほど申し上げました新しい会議体も観光についてはつくりましますし、それから、来年こそはまさに東北観光復興元年というような位置づけで、特にいよいよ新しい5年目、6年目というか、5年過ぎて新しいステージに入りますから、そうした意味においても東北の観光というものをしっかりと進めていって東北を元気にする、そういうような取組をやりたいというふうに思っております。

(問) それは国内、海外問わず。

(答) そうですね。特に、先ほど申し上げましたけれども、国内はまずまず戻りつつあるというふうに聞いていますけれども、まだ海外からのインバウンドが全然、日本中まさにどこもそういうことを頑張っていて、2,000万人時代と言われてはいますけれども、東北にはまだそういったことにはなっておりませんので、ぜひ東北にも多くの外国人観光客が来るように取り組んでいきたいというふうに思っています。

(問) 大臣、これが今年最後の視察になるかと思うんですけれども、今年17回の視察を振り返ってみて、どんなことにお感じになったのでしょうか。

(答) 最後かどうか、できたらもう一回と、私はそれぐらいの気持ちは持っています。段取りが整えばという思いでありますけど、それはともかくとして、就任してから2カ月ちょっとの間でしたけれども、17回訪問させていただきました。これも常々申し上げておりますけれども、復興の段階というものがいろいろな形である。地域によって、あるいは市町によってもいろいろ違う。ですから、まさに今、市町がどういう状況にあって、どういう課題があるのかということをしかりとニーズを把握していって、それに対応していくということが大事だということと、先ほど申し上げておりますけれども、いよいよ5年経つ。その次の5年間というのは非常に大事な、まさに復興・創生の期間でありますから、それをどうしていくかということをしかりと見きわめて、次の5年間というものに取り組んでいくという、そういったことが大事だということと、この17回の訪問によって感じました。

また、首長さんを初め多くの、今日も被災地の皆さん、住民の方にお会いしましたけれども、皆さんありがたいことに、本当に苦労していらっしゃる

んですけれども、元気に復興に向けて頑張ろうという意識がどなたもやはり、私はこの17回の訪問で全て感じました。ですから、まさに苦勞なさっている中で被災者の方が頑張っている。私たちは、それをまさにその方たちに寄り添って、その方たち以上に頑張らなければならないと、そんなようなことも感じた次第であります。

(問) 特に来年こういったところを見たいとか何かありますか。

(答) そうですね、どこというのではなくて、これからも現場主義と言っているんだと思いますけれども、現場に赴く。そして東北全体、今日は宮城でありますけれども、宮城、岩手、そして福島というのがありますので、まだ福島というのなかなか厳しい状況。もちろん宮城、岩手も厳しいですけど、福島は更に厳しい状況でありますから、やはりどうしても福島をしっかりとやっていくということが東北の復興ではないかなというふうなことも思います。

(問) 先ほどおっしゃいました観光振興のための会議というのは、今どのようなもの描いているか、もう少し具体的に教えていただければ。

(答) これは明日、記者発表させていただく予定でございますけれども、先般の11月12日だったかと思っておりますけれども、復興推進委員会がございまして、その場で私のほうから、ぜひ東北の観光というものを進めていきたい。先ほども申し上げましたけれども、インバウンド2,000万人時代を迎えて、しかも、人口減少の中でどの自治体も交流人口というものを獲得しようと思っ躍起になっている。まだ東北は復興道半ばではあります。ですから、もしかすると時期尚早かもしれないけれども、ぜひ観光に取り組んでいきたいという提案をさせていただきましたら、知事さん方たちからも、ぜひそれはやっていただきたい、やるべきだという話がございましたので、会議体につきましては明日発表させていただきますけれども、これまでいろいろな形で観光に携わってきていただいた方を中心に、私なりにかなり著名な方というんでしょうか、観光行政に関してはかなり造詣が深い方に集まっていたという自負はいたしておりますし、そうした方にお集まりをいただいて、来年春、3月、4月ぐらいまでには東北の観光をこれからはどうやっていくかというようなことを出したいというふうな思いでございまして、そういったような会議体と思っただければ結構かというふうに思います。

(問) この前の国会の中で野党からいろいろ話があったときに、大臣は、改めて被災者のために頑張ることが職責だというふうにおっしゃりましたけれども、今日改めて視察されて、御自分の職責をどのように感じられたか伺えますか。

(答) もちろん、引き続いてしっかりと与えられたこの復興大臣という重い職責を果たしていくというのが私の務めだというふうに思います。

(以 上)